

研究所 所報

2018年3月 No.157

争いごとを

平和的に解決できる力をもった

子どもたちを育てるために

～いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育実践記録集～



静岡県教職員組合立教育研究所
国際連帯と平和教育研究委員会

目次

巻頭言	いつでも どこでも 誰でもできる平和教育を深めよう…………… 1
	—すべての子どもに、問題を平和的に解決する力を—
	国際連帯と平和教育推進委員会 共同研究者 伊藤 恭彦
教育研究所が考える平和教育……………	3
実践編 (P5～P33)	
実践1	平和的な問題解決の方法を考える…………… 6
	小学校1年 道徳
	実践者 伊藤慎吾 (湖西市立鷺津小学校)
実践2	地域の多様性について知ろう…………… 9
	～多面的なものの見方のできる子をめざして～
	小学校3年 社会科
	実践者 青木 淳 (磐田市立磐田中部小学校)
実践3	みんながうまくいくために ～ルールとマナーについて考えよう～……………12
	小学校3年 道徳
	実践者 寺島健太郎 (島田市立島田第二小学校)
実践4	道徳の資料をもとに話し合い活動をし 平和的な解決策を模索し提案する…16
	小学校4年 道徳
	実践者 尾嶋 渉 (浜松市立葵が丘小学校)
実践5	北アメリカの地域的特色を考える……………20
	中学校1年 社会科
	実践者 北村大策 (伊東市立南中学校)
実践6	平和とは何か……………23
	中学校1年 道徳
	実践者 土屋信治 (富士宮市立富士宮第一中学校)
実践7	文化としてのスポーツ ～国際的なスポーツ大会とその役割～……………27
	中学校3年 保健体育科
	実践者 櫻井 剛 (掛川市立北中学校)
実践8	モラルジレンマを通して、子どもの考えを深める……………31
	中学校3年 道徳
	実践者 瀧 大輔 (静岡市立東中学校)

いつでも どこでも 誰でもできる平和教育を深めよう

—すべての子どもに

問題を平和的に解決する力を—



伊藤 恭彦 (共同研究者 名古屋市立大学)

人間社会は多様な人々から成り立っています。それぞれの人が大切にしたいと思っている価値や利益はさまざまです。多様性が私たちの社会の恒久的な特徴と言ってよいでしょう。この多様性は家族、地域、学校、国、そして地球規模で広がっています。多様性は人間社会に新しい可能性を生み出す源ですが、同時に争いの原因にもなります。なぜならば多様な価値や利益の全てを実現することは、資源の希少性から不可能なのです。したがって、価値や利益をめぐる、残念なことかもしれませんが、私たちはお互いに争うことになります。

人間社会から争いごと（もめごと、対立、紛争）はなくならないという現実を踏まえたとき、私たちに課せられたテーマは、争いを暴力ではなく平和的に解決することです。人間社会から争いごとをなくしていくと努力することとても大切です。しかし、私たちが考える平和教育は、争いごとはなくならないという現実から出発し、争いごとを暴力という手段を使わずに解決していく力を高めていくことに焦点をあてています。

現代がグローバル化の時代だと言われてずいぶん時間がたちました。国境を越えた経済活動がどんどん進展していますから、グローバル化の流れは今でも続いています。グローバル化が始まった頃、多くの人々はこれを世界の繁栄につながるものと肯定的に評価しました。市場規模が拡大し、経済成長が続くと考えたのです。

しかし、現実はどうでしょうか。多くの国で経済が成長しましたが、その恩恵は一部の人に留まっています。またグローバル化の恩恵を全く受けていない国や地域も多く存在します。グローバル化は全員に利益をもたらすのではなく、むしろ格差を拡大したとすることができます。そうした状況の中で社会に不満をもつ人々が増加しています。

そのような不満を背景に、国内外の対立をおおる政治家が登場してきています。敵を特定し、その敵と闘うことを声高に叫び、支持を獲得しています。そして対立をおおる政治はエスカレートし、軍事的危機や戦争の危機が高めています。

敵を特定する政治は同時に社会的排除の政治でもあります。敵の排除から始まり、民族に対する差別、弱者の排除、異質者の排除、さらには社会サービス受給者叩きが拡大しています。

現在は近年まれに見る社会的対立と戦争の危機の時代にあると言っても過言ではありません。朝鮮半島情勢から軍事行動も必要だという考えも広がっています。こうした対立と戦争の危機の時代にあって、私たちがまず確認しなくてはならないのは、戦争という暴力発動は決して私たちが直面する問題を解決しないということです。確かに暴力が発動されれば短期的には勝者による力の支配が確立し安定がもたらされるかもしれませんが、しかし、暴力的に圧倒された人々の中には怨念が堆積します。そして、それがまた次の暴力発動の温床となります。このことはイラク戦争後のイラクやシリアの紛争の泥沼化を想起すれば、理解できるでしょう。

社会的対立と戦争の時代だからこそ、平和的に問題を解決する力が必要なのです。このことは、日本だけでなく地球的課題です。また全ての世代が身につけるべき力です。特に次の時代を担う子どもたちには必須の力だと言えます。

平和教育と聞くと第二次世界大戦の悲惨さを学習する反戦教育をイメージする人が多数だと思います。平和を理解するために過去の戦争を学ぶことは、今でも平和教育のとても大切な柱の一つです。

しかし、現代の紛争や戦争や容易に白黒決められないものが多く、紛争が関係する利益に私たち自身の利益も結びついてしまっています。例えば、限りある天然資源について考えて見ましょう。私たちの豊かで便利な生活の背後には、熾烈な資源争奪戦があります。他者や他国を差し置いても、私たちは自分たちの生活のために資源を確保するかもしれません。そうした中、戦争の悲惨さを伝えるだけで戦争をなくす力は育ちません。より積極的に平和を構築していく力が必要なのです。

私たちは2年間の研究活動で、子どもたちに身につけたい力として「他者の立場に立って、聞くことができる」、「他者の立場を尊重して、自分の考えや思いを伝えることができる」、「多面的なものの見方や考え方ができる」として定式化してみました。これを平和的に問題を解決する力の基本としたいと思います。二点補足しておきます。

第一にこのような力の養成に対して、先生方から「私が教室で子どもたちに身につけさせたい力の中にこの3つは入っている。ことさら平和は考えていないけど」との意見がでるでしょう。この意見は私たちの考えとぴったりです。「いつでも、どこでも、誰でもできる」平和教育の意味がここにあります。ことさら「平和教育」と銘打たなくても、みなさんが日々、教室実践されている一つ一つの授業や学級活動が、全て平和と結びついているのです。是非、そういう観点で、日々の実践を見つめ直してください。

第二に今回定式化した力は、どこかの学者の考えではありません。教育研究所の国際連帯と平和教育研究委員会に集まった所員の皆さんの実践の中からできあがったものです。チャレンジングな実践もありました。うまくいかない実践もありました。それでも研究委員会で楽しく議論しながら、実践を積み上げ、平和的に問題を解決する力の定式化までこぎ着けました。この所報に所員のみなさんの豊かな実践が記録されています。是非、ご覧になってください。

子どもたちにつけたい平和的に問題を解決する力は、まだ試論的なものです。組合員のみなさんからのご意見を踏まえ、絶えず改訂していくものだと考えています。この所報がきっかけになり、「いつでも、どこでも、誰でもできる」平和教育への関心が、さらに拡大していくことを期待しています。

教育研究所が考える平和教育

これまでの平和教育

反戦平和教育

「武器を持ち、お互いに相手の生命を奪い合う戦争」を、戦争の悲惨さや被害者の立場で扱い、二度と戦争をしないことをめざす平和教育

子どもを取り巻く世界的な状況

- ・ 飢餓や虐待、劣悪な生活
- ・ 貧困家庭の増加

学校社会の状況

- ・ 深刻ないじめや問題行動の実態
- ・ 良好とは言えない人間関係の実態
- ・ 人権を無視した言動等

今の私たちの社会の現実

- ・ 価値観、文化の多様性
- ・ 経済、利益、生産性の重視
- ・ 国や民族に、宗教の違い等による争い
- ・ 貧困と格差の拡大
- ・ 自国ファーストの考え方や国策（排除、差別）
- ・ 深刻な環境破壊

人間社会から、争いごと（もめごと、対立、紛争等）はなくなる。
争いごとを、暴力や力ではなく、平和的に解決する力の育成が求められる。

教育研究所が考える平和教育

- 1 これまでの反戦平和教育
+
- 2 人間社会から争いごとはなくなるという前提に立ち、
「争いごとを平和的に解決する力をもった子どもたち」を育てる平和教育

争いごとを平和的に解決する力をもった子どもとは…

- 他者の立場に立って、聞くことができる子ども（聞く）
- 他者の立場を尊重し、自分の考えや思いを伝えることができる子ども（伝える）
- 多面的なものの見方や考え方ができる子ども（考える）

みなさんは、平和教育と聞くとどんなイメージをもたれるでしょうか。

多くの場合、「武器を持った戦争」を、被害者の立場から取り上げ、残酷さや悲惨さ、さらには人権を踏みにじる非人道的な行為等を通して、戦争はよくない、戦争はしないという反戦平和教育を思い浮かべるかと思います。また、平和教育という言葉は職員室の中で頻繁に交わされる言葉ではないため、平和の大切さや重要性は理解しつつも平和教育についての不断の意識は薄れがちかと思えます。しかし、戦争に反対し、平和を愛することは誰もが思うところですので反戦平和教育は忘れてはならないことです。

さて、時代の流れや社会の変化の中で、世界を見たとき、飢餓や虐待、劣悪な生活環境で過ごしている子どもたちがいます。また、近年、日本では貧困家庭で育つ子どもたちが増え、経済格差が教育格差を生んでいるとも言われます。

一方、学校の現実を見ると、深刻ないじめの問題は解決の糸口すら見えず、いじめの件数は年々増加しています。また、子どもたちの人権を無視した心もとない言動や生命を冒瀆する行為等があとを絶ちません。最近では、良好な人間関係をつくるのが不得手な子どもが増え、互いにかかわり合うことを回避するようになり、このことが学級内での小さいいざこざやもめごとにつながっているように思います。



さらに、私たちが生きる社会には、国や民族、宗教等の違いによる争い、価値観や文化の多様性による混乱と紛争が世界のどこかで起きています。また、どこかの国の大統領の〇〇ファーストに見られる排除と差別が、いろいろな国で台頭してきています。経済や利益、生産性重視による深刻な環境破壊が進行しています。

これらは、国と国が武器をもってたがいに命を奪い合う戦争とは違い、「武器を持たない戦争」であり、平和を脅かす「もう一つの戦争」だと言えます。

そこで、教育研究所では、これからの平和教育は、「①武器を持った戦争」だけでなく、「②もう一つの戦争」から平和教育を考えていく必要があると考えました。

人間社会から争いごと（もめごと、対立、紛争等）は無くならない。
だからこそ、争いごとを暴力や力ではなく、平和的に解決する力が求められる。
この力を子どもたちに育てるという平和教育を、実践を通して研究する。

これが、教育研究所で考える反戦平和教育とは違った視点での平和教育です。

つまり、教育研究所では、反戦平和教育と争いごとを平和的に解決する力を育てる平和教育の両方を、授業実践を通して研究しているということです。

平和的な問題解決の方法を考える

平和的な問題解決の方法を考えることは、人と関わりながら生きていく上でとても重要なことです。児童が実社会で直面する問題は、「AかBか」の選択ではなく、お互いの妥協点を探るものや、難解で答えがあるかどうかもわからないものが多いのではないのでしょうか。だからこそ、前向きな解決策を提案できる力を育てることが、児童のよりよい人生につながると考えています。

そこで、1年生の児童の間でしばしば起きる「仲間外れ」をテーマに、平和的な問題解決の方法について考える道徳の実践を行いました。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 伊藤 慎吾（湖西市立鷺津小学校）

- 1 題材 ともだちと なかよく〈学習指導要領2－(3)友情 助け合い〉
- 2 資料名 「およげないりすさん」 出典：『わたしたちの道徳 小学校1・2年』（文部科学省）
- 3 本時の指導
 - (1) 本時の目標 りすを仲間外れにしてしまったかめの気持ちを考えることを通して、友だちと仲良くし、互いに助け合っていこうとする態度を育てる。
 - (2) 本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ○支援 ◎評価
導入	○事前に行ったアンケートの結果をもとに、仲間外れにしたり、仲間外れにされたりした経験について話し合う。	・仲間外れが、普段の生活の中で起きていることを確かめる。
展開 (前段)	○資料「およげないりすさん」を読んで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> りすさんが「ぼくもいっしょにつれて行ってね。」と言ったとき、かめさんはどんなことを考えたでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんは泳げないから、いっしょに行けない。 ・どうしようかな。あひるさんと白鳥さんはどう思っているかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かめさんが、遊んでいても少しも楽しくなかったのは、なぜでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんが今何をしているか、気になったから。 ・りすさんを仲間外れにしてしまったことを思い出したから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概要を話してから、場面絵を提示しながら範読する。 ・かめ、白鳥、あひるは泳げるが、りすは泳げないことをおさえる。 <p>○ハートメーターに色を塗り、かめの気持ちを書けた児童は、他の児童と交流するよう指示する。</p> <p>○かめの考えを書けない児童には、場面の状況を再度説明する。</p> <p>◎友だちと仲良くし、助け合っていこうとする気持ちをもつことができたか。（ワークシート・発言）</p>

	<p>かめさんの「いい考え」とは、どんな考えだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんを背中に乗せて、島へ渡ろう。 ・りすさんのために、みんなで橋を作ろう。 ・島へ行くのはやめて、他の遊びをしよう。 <p>喜んでいるりすさんを見て、かめさんはどんなことを考えたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんもいっしょに遊びに行けるように、みんなで考えてよかった。 ・仲間外れにして悪かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でアイデアを書いた後、グループで話し合うよう告げる。 ・ハートメーターに塗った色と、その理由を尋ねる。
展開 (後段)	<p>○自分の経験を振り返る。</p> <p>友達のことを思っただけであげたことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みに一人である友達を遊びにさそったら、とても喜んでくれた。 ・友達に「いっしょに帰ろう」と言ったら、とてもうれしそうだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを書いた児童には、他の児童と交流するよう指示する。 ○振り返りを書けない児童には、具体例を挙げて、自分にあてはまることのないか考えるよう促す。
終末	<p>○教員の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート結果と本時の学習を関連付けて話す。

4 成果と課題

○多くの児童が、りすを連れて行くための平和的な解決策を複数考えた。(主な意見は以下の通り)

- ・かめ、あひる、白鳥の背中に乗せる。
- ・橋を作る。
- ・りすをバケツに入れて運ぶ。
- ・りすのために浮き輪を用意する。

○最後のハートメーターの大部分を赤で塗り、少しだけ青で塗った児童に理由を尋ねると、「いっしょに行けてよかったと思っているけれど、りすに乗られてちょっと重いから」と答えた。だれかのために何かをしようとすることは、苦勞を伴うことがあるということを全体で共有できた。

▲発問に対する子どもの反応の予想が甘かった。最初の段階で「りすさんを助ける」という意見が多く出てきたことは想定外だった。児童の心に葛藤が生まれるような手だてが必要だった。

▲資料について意見を言うことはできたが、「自分を振り返って」を書ける子は少なかった。

5 資料

意識調査 (事前に口頭で実施)

① 仲間外れにされたことがありますか。

- ・ある (6人)
- ・ない (22人)

② それはどんなときですか。

- ・登下校中 (2人)
- ・休み時間や昼休み (3人)
- ・下校後 (1人)

③ 仲間外れにされている友だちを見たことがありますか。

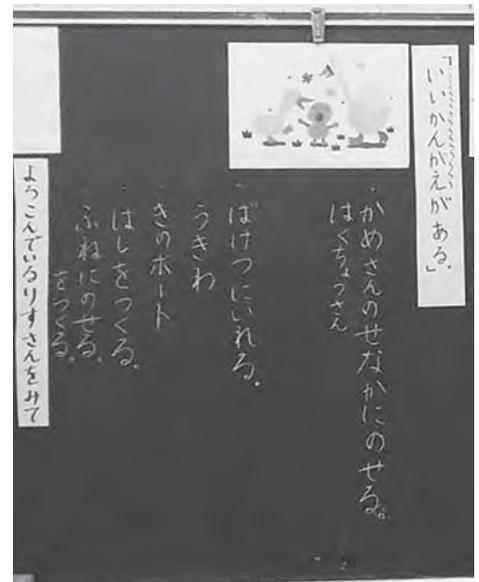
- ・ある (6人)
- ・ない (22人)

④ それはどんなときですか。

- ・登下校中 (2人)
- ・休み時間や昼休み (4人)
- ・下校後 (0人)



【考えを交流する様子】



【児童が発表した解決方法】

地域の多様性について知ろう ～多面的なものの見方のできる子をめざして～

子どもたちが自ら生活している地域に誇りを持ち、愛することはとても大切なことです。しかし、子どもたちが生活をしている地区のほかにも、様々な社会環境や自然環境の中で生活している人たちがたくさんいます。本単元では、磐田市の様子を知ること为目标に、地形や土地利用等に特徴のある地域の様子の学習を行いました。学習過程で、各地域に住む人たちの生活を学びながら、自他との違いについて気付かせていきたいと考え、実践を行いました。

【授業の具体】

第3学年1組 社会科学習指導案

指導者 青木 淳（磐田市立磐田中部小学校）

1 単元名 市の様子 ～わたしたちの磐田市～

2 単元目標

- 市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。（関心・意欲・態度）
- 土地利用の様子を地形的な条件や社会的な条件と関連づけたり、分布の様子を相互に比較したりして、市の様子には場所によって違いがあることを考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- 地図や航空写真などの資料を活用して、市の様子について、絵地図や白地図等にまとめながら調べることができる。（観察・資料活用の技能）
- 市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など、市の様子には場所によって違いがあることを理解している。（知識・理解）

3 本時の学習（4／11）

- （1）目標 栽培される作物が場所によって違うことを、写真や資料などから調べ、気付いたことをまとめ、話し合うことができる。（思考・判断・表現）
- （2）準備物 教員…写真（茶・稲作・畑作）、クニャ map
- （3）学習過程

学習活動 ・予想される児童の表れ○主発問	指導の工夫（☆焦点化□視覚化△共有化・個別の支援等）
1 磐田市で作られている作物をについて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・メロンが有名です。 ・えびいもは給食でも出てくるよ。 ・お茶 ・白ねぎ ・米 ・チンゲンサイ 	☆子どもの意識を農業に向けさせるために、磐田市で生産されている農作物を、自由に発言させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・磐田市では、多くの農作物が生産されていることを確認する。

2 学習課題を知る。

磐田市で作られている作物は、どんな場所で作られているだろう。

3 写真を提示し話し合う。

○気付いたことを発表しよう。

- ・お茶を作っているのは、ららぽーとの近くだよ。
- ・お茶は、磐田原台地で作っているんだよ。
- ・磐田原台地ってなに。
- ・しそを作っているのは、どこだろう。
- ・平らな所で作られているよ。
- ・米を作っているところは、土地が平らだね。

4 磐田市の農作物の収穫される場所を確認する。

○なぜ場所によって、作られる作物に違いがあるのだろう。

- ・土地が高い所で、お茶は作られているな。
- ・水に関係があるのかな。
- ・米を作っている場所はたくさんの水が必要だね。
- ・台地の上は、川があまりないね。
- ・お茶は、水が少なくてもできるのかな。
- ・場所によって、作られる作物に違いがあるね。

5 学習のまとめをする。

磐田市は土地の高いところ、低いところで作られる作物に違いがある。川や周りに水があるかないかで違いがある。

□茶・稲作・畑作の3枚の写真をグループごとに配布する。

- ・写真の様子から、土地の高低の様子などで生産されているものの違うことを気付かせる。

△気付いたことを友だちと話し合いながら、ノートにまとめる。

□写真が撮影された場所をクニヤmapで確認する。

- ・クニヤmapを見ながら、気付いたことを話し合う。

□クニヤmapの色の違いに注目させることで、収穫される作物が場所によって違いがあることを確認する。

- ・話し合いの途中で植物の成長には、水が必要であることを確認することで、川の流りに子どもたちの意識を向けさせる。

〈評価〉

栽培される作物が場所によって違うことを、写真や資料などから調べ、気付いたことをまとめ、話し合うことができる。(ノート・発表)

4 授業後の反省と評価

本校(磐田市立磐田中部小学校)は、磐田市の中心地にあり、官公庁や大型店、昔ながらの商店街なども有する歴史的にも古い地域である。多くの子どもたちは、地域行事にも積極的に参加し、比較的地域とのつながりが密である。

このような児童の実態の中で「市の様子」の学習をすすめたが、その中で一番重視したのは、「多面的なものの見方」ができることだった。磐田市は南北に長い地形であり、北は磐田原台地、南は遠州灘を望む。それぞれの特徴ある地域の学習をすすめ、それぞれの地区に住む人々の生活の違いを知ること、「わたしたちの磐田市」を愛する心をもっと深めていきたいと思った。

しかし、子ども一人一人の生活経験の差もあり、なかなか違う地区に住む人々のことを知ることは難しかったが、「自分が住んでいる地区との違い」については、多少考えることができたように思う。小さいことの積み重ねだが、このような学習が「多面的なものの見方ができる」ことにつながっていけばよいと感じる。

5 資料等

(授業で使用した磐田市の各地区の写真)



磐田原台地に広がる茶畑



磐田市の南部地域（水田地帯）



天竜川沿いの畑作地域

(子どもたちの感想から)

- 私たちが住んでいるところは、田畑が少ないけど、場所によって、作られている作物に違いがあることがわかった。
- 土地の高いところや低いところで、作られている作物は全然違う。同じ磐田市でも、場所によって違いがあるのがわかった。

みんながうまくいくために ～ルールとマナーについて考えよう～

集団生活の中では、きまりや規則を遵守し相手の立場に立って考え自分の言動を決めることが大切です。これは、大きくは「平和構築力」を高めるために必要な資質と言えます。「きまりや規則があるからただ守る」という受動的な態度ではなく、自他がより幸せな社会生活を送るために自らルールやマナーを尊重していこうとする能動的な姿勢を育てたいと考えました。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 寺島健太郎（島田市立島田第二小学校）

- 1 主題名 目に見えないきまり【4－（1）規則の尊重、公德心】
資料名 「雨のバスていりゅう所で」（出典：「心ゆたかに 3年」静岡県出版文化会）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値

学校や社会にはさまざまな約束やきまり、規則がある。円滑な社会生活を送り、自分も周囲の人間も幸せに生きるためには、それらのきまりにただ従うだけでなくその意義を捉えさせることが必要である。3年生の発達段階では、相手の気持ちを考えて行動することができるようになってくるが、まだまだ自己中心的な行動も多い。この時期に、社会の一員としてみんなのことを考えて行動し、自他共に幸せに生活していこうとする姿勢を身に付けさせたい。

（2）児童について

本学級には、学校や学級のきまりを守って行動しようとする意識が比較的高い児童が多い。しかし、みんなですったものを片付けたり、提出物を提出したりする場面等で、自分の都合を優先させた行動をとってしまうこともある。そこで、みんなが楽しく生活していくためには、「目に見えないきまり」＝マナーも必要でありそれらを尊重しようとする姿勢を育てたい。

（3）資料について

資料は、雨降りの日に母親と外出したよし子が、停留所でバスを待つ人々の順番を無視して乗り込もうとしたが、母親の毅然とした態度を見ることを通して、自分の行動を反省し、社会のきまりや公德を守ることの大切さに気付いていくという内容である。順番を守らないという日常生活にありがちな行為や、母親の態度やよし子の心の動きを考えさせることによってねらいに迫りたい。

3 本時の指導

（1）本時の目標

物語の最初と最後でのよし子の変化を通して、ルールのようにはっきりと決められたことでなくても、みんなのことを考えてマナーを守ろうとする態度を育てる。

〔4－（1）規則の尊重、公德心〕

(2) 本時の展開

	○学習活動・予想される児童の表れ	形態	・手だて◇支援【】評価
導入	○今まで何かを待つために並んだことがあるかな。 ・テスト直しの丸付けをしてもらうために並んだ。 ・遊園地でチケットを買うために並んだよ。	全体	・本時の資料に関心をもたせる。
展開 (前段)	○本資料を読む ・雨の日のことなんだね。 ・よし子さん、まずいことしちゃったね。 ○よしさんはどんな人でしょうか。 ・ルールを守らない人。 ・自分のことばかり考えてる人。 ・でも最後にはお母さんの顔を見て考えたよ。 ・最後には自分がしたことが良くなかったなって後悔してたと思う。 ○よしさんは最初と最後でどこが変わったの。 ・最初は自分のことばかりだったけど、周りの人のことも考えるようになった。 ○「列に並んで待ちましょう」というきまりは、どこかに書いてあるのかな。 ・書いてないよ。 ・書いてないけど守らなきゃいけないよ。	個 ↓ 全体	◇最初と最後の場面を中心によし子の言動を追うことで、その変化に目を向けるようにさせる。 ◇明文化されているきまり（ルール）とそうでないきまり（マナー）とを区別して考えることができるようにさせる。
展開 (後段)	○「目に見えないきまり」には例えばどんなものがあるかな。 ・廊下を走り回らない。 ・お店や博物館などでは静かにする。 ・並ぶときには順番を守る。	全体	・補足として、震災時の避難場所で整然と列を作って配給を待つ人々の写真を紹介する。
終末	○今日の授業を通して考えたことを書いてみよう。 ◎みんなが楽しく生活するためにこれからもきまりを守っていこう。 ◎周りの人に迷惑をかけないようにしたいな。 ◎ルールだけじゃなくマナーを守ること大切なんだね。	個	【規則の尊重】 今までの自分を振り返り、集団生活していく中でのマナーについて考えることができ、それを守ろうという考えをもつことができる。 (発言・シート)

4 授業後の反省と評価

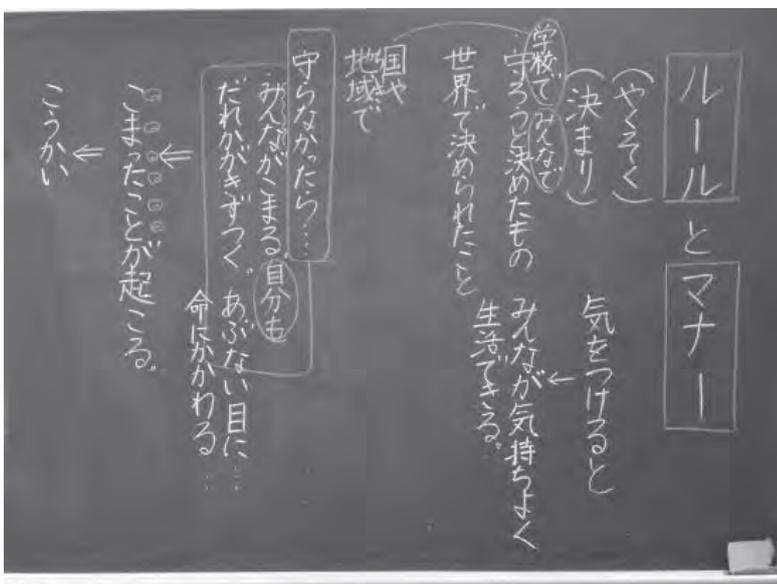
集団で生活している子どもたちにとって、「待つ」という行為は一般的なものである。また、小学3年生という発達段階では、「きまりごとはしっかり守らないといけない」という思いが強いため、本資料を一読した後は、「よし子さん」の行動における問題点に自然に気持ちを向けることができた。

停留所でバスを待つ人たちの「早く来ないかな」「雨で服や靴がぬれてしまう」という思いを確認した後、そのバスがやっと到着した際のよし子さんのとった行動については「横入りをしてる」「割り込みはだめ」といった言葉が出された。この段階では、規則や約束の重要性を考えてというよりも、待っている人たちを自分に置き換えた場合の気持ち、すなわち「ずるい」「みんな並んでいたのに」という思いから「よしさんはよくない行動をしてしまった」という意見に至ったと考えられる。横入りや割り込みは、生活経験として誰もが見たり体験したりしてきているため、よしさんが自己中心的な行動をしたという意見には皆が納得していた。このため、「よしさんは最初と最後でどう変わったか」の最初の場面では、「バスに乗る時は自分のことしか考えていなかった。」という言葉が出された。しかし、最後は「お母さんのこわい顔を見て自分が悪いことをしたと思った。」というように、途中で主人公の心情が変化したことについても想像できた子が多かった。

さらに、主発問『列に並んで待ちましょう』というきまりは、どこかに書いてあるのかな』については、「それは当たり前だから書いてない。」「書いてないけど守った方がいい。」という意見が出された。「書いてないなら（決まってないなら）守らなくてもいいんじゃない？」という教員の揺さぶりに「マナーが悪いから」といった声が出されたため、きまりを表す言葉には「ルール」や「マナー」といったいろいろなものがあることを確認し、その違いについて考えていった。子どもたちの中では、ルールは誰かが決めたもの、マナーについては（よく説明はできないが）守った方がいいもの、といった印象であることが伺えた。ここでは、2つの言葉の意味を明らかにするというより、ルールもマナーも他者を尊重するためにあることを押さえたかったため深入りは避けた。子どもたちは、どちらも、もし守られなかったら「みんなが困る」ことになり、守ることによって「みんなが気持ちよく生活することができる」といった言葉でこれを表現していた。

ルールについては、これまでもドッジボールなどのスポーツのルールや信号機の色といった交通ルールを例に、「どうしてそれが必要なのか」「もしルールがなかったらどうなるか」を生活の中で考えてきている。今回は、これに加え「明文化されていないきまり」をマナーと捉えて扱った。現実的には、両者の捉え方は場面や立場によって様々であり、その違いを明らかにすることは難しい。今回の実践は、「みんながうまく

いくために気をつけた方がいいことがある」や「たとえ決まっていなくても周りの人のことも考えて行動することが必要である」という思いをもたせたいという願いで行った。4-(1)の主題の中でも特に公德心に焦点を当て、道徳において主体的にとりくむ態度を育成するための言語活動充実のガイドライン（文部科学省初等中等教育局教育課程課）も参考に授業を構成した。終末の感想「ぼくは、みんながうまくいくためにルールやマナーを守るようにしたいです。」の思いが、これからも育っていくことを期待している。



雨のバスでいりゅう所で（出典：「心ゆたかに 3年」静岡県出版分科会）

今日は、お母さんといっしょに、おばさんの家に出かける日です。ところが、朝から雨がふっています。よし子さんは、少しつまらなくなりました。家を出るときには、雨はあっという間に強くなり、おまけに風もふいていました。おみやげが入っている紙ぶくろにも、大つぶの雨がどんどんふりかかります。

バスのでいりゅう所の近くでは、バスを待つ人たちが、もういく人も、たばこ屋さんののき下で雨やどりをしていました。のき下に入っても、雨はよし子さんの長ぐつや紙ぶくろにふきつきます。雨やどりしている人たちは、バスが来る方をときどき見えています。

遠くの方に、小さくバスが見えました。

よし子さんは、雨の中へたっただけかけ出すと、でいりゅう所でいちばん先頭にならびました。バスが来たことを知った人たちは、そろそろとでいりゅう所に向かって歩き始めました。

そのときです。後ろの方で、お母さんの声が聞こえたような気がしました。よその人の声も、聞こえたように思いました。でも、どしゃぶりの雨なので、よし子さんはべつに気にもしませんでした。

バスが止まりました。

よし子さんがかさをつぼめようとしたとき、かたが強い力で後ろの方に、ぐいと引かれました。かたをしっかりつかんだ、ものすごく強い力でした。びっくりしてふり返ると、お母さんの手でした。よし子さんは、ハッとしました。それでも、お母さんは、何も言わないで、よし子さんをお母さんがならんでいるところまでつれていきました。いつものお母さんの顔とちがって、とてもこわそうな顔でした。



バスに乗る人たちの列が動き出しました。一人ひとりがかさをつぼめてバスに乗るので、いつもとちがって時間がかかります。

「前の人たちは、どうして早く乗ってくれないのだろう……。」

よし子さんは、こんなことを考えながら、少しじりじりした気持ちで前に進みました。

バスに乗りました。でも、もうざせきはあいていませんでした。「ほら、ごらんなさい。」

と言うつもりで、よし子さんは、横に立っているお母さんの顔を見上げました。そんなよし子さんに知らぬふりをして、お母さんは、だまったまま、まどの外をじっと見つめています。いつもなら、やさしく話しかけてくれるお母さんです。でも、今日のお母さんは、いつもとはぜんぜんちがうのです。

そんなお母さんの横顔を見ていたよし子さんは、自分がしたこと考え始めました。

バスのまどには、大つぶの雨がしきりにふきつけていました。

道徳の資料をもとに話し合い活動をし、 平和的な解決策を模索し提案する

この時期の子どもたちは、わがままな感情やその場の欲求を抑えきれずに行動し、失敗することがしばしばあります。また、たとえ先のことまで考えて行動したとしても失敗や過ちを犯してしまうことも多くあります。そこで、道徳の授業の中で、資料をもとに、今までの考え方や行動を振り返り、見つめ直して謙虚に反省したり、人の意見にも広く耳を傾けたりする態度を育て、そして失敗や過ちをしてしまった際にどのように平和的に解決していくことができるのかを話し合い、提案をする、という授業を考えました。

【授業の具体】

第4学年2組 道徳学習指導案

指導者 尾嶋 渉（浜松市立葵が丘小学校）

1 主題名 自分を見つめて 1－(4)正直・誠実・明朗

2 ねらいと資料名

- 自分の過ちは素直に認め、改めようとする心情を育てる。
- 資料名「一つのミニトマト」出典『心ゆたかに』（静岡県出版文化会）

3 資料について

(1) 児童の実態 (33人)

学級の子どもたちは、教員の話を書きちゃんと聞いたり、言われたことやきまりについて守ったりすることはおおむねできている。しかし、後のことを考えずに目先の楽しさや欲求で行動してしまうことが多い。また、過ちを素直に受け止めたり、謝ったり改めたりすることに、抵抗を示す子どもも多い。

(2) 資料の構想

本資料は、「学級園の前を通りかかった主人公が、そこになっていたミニトマトやきゅうりを何気なく取り、持ち帰ってしまう。翌日、それが2年生が大切に育てていた物だったと知り、自分の行動がもとで大変な事態になっていることに気付く。」という内容である。後悔する主人公の姿は、子どもたちの生活場面に類似しており、主人公の行動や気持ちに共感できる資料である。そこで、このような失敗をしてしまった際には、どのようにすればより良い解決となるのかを話し合い、その解決策を提案し合う。活動の中で、これまでの失敗を振り返らせたり、今後、平和的な解決をするためにはどういうことが必要なのか考えさせたりしたい。また、話し合いの中で、たまたまなくなって家に向かって走り出した主人公が何を思っているのかを想像させ、自分の過ちは素直に認め、改めようとする心情の大切さに迫り、解決策を提案させ、今後の生活に結びつけていきたい。

4 学習過程

学習活動と主な発問	○支援 ☆評価
1 事前に記入していた、「失敗をした後、それについてどう振り返りをしたか、どんな対応をしたか」経験を話し合う。	○ 事前に書いておいた経験を出し合い、誰にでも失敗の経験があることを確認しておく。
2 資料「一つのミニトマト」を読み、話し合う。 ○ 真由美さんは、どんな気持ちでトマトを取っていたと思うか。 ○ 真由美さんは、どんな気持ちで2年生の放送を聞いていたと思うか。 ○ 家に向かって走り出したとき、真由美さんはどんなことを考えていたと思うか。 ◎ 真由美さんはこの後どのような行動を取ればいいのかと思うか。 3 自分の生活を振り返る。 ○ これから自分が失敗したとしたら、どんなことが大切だと思うか。	○ 真由美さんは深い考えもなく、目先の楽しさだけで野菜を取ってしまったことを押さえておく。 ○ 放送を聞いて、初めて自分が悪いことをしてしまったと気づき、心が動揺する様子をつかませる。合わせて、クラスメイトたちの非難の声に追い込まれていく心情もつかませる。 ○ 家に向かって走り出したとき、真由美さんはどんなことを考えていたと思うかを考えさせることで今後どのようにしたらいいのか話し合う動機付けとする。 ○ まず、自分の考えを書かせる。考えを交流しながら、真由美さんがどのような行動を今後すべきか考えさせ、「過ちを素直に認め、改めようとする」という価値に迫る。 ☆ 「自分の過ちは素直に認め、改めようとする」価値を理解し、行動に移そうという気持ちをもつことができたか。
4 教員の話聞く。	○ 思慮を欠いたことによる過ちを振り返り、反省した事例を話す。

5 授業後の反省と評価

- 導入の段階での子どもたちの失敗談は、どの子も素直に自分を振り返り書くことができていた。特に失敗だけではなく、「どう振り返ったのか」にまで言及することができていた。

(児童の感想例 ※導入段階「自分の失敗例」)

忘れ物をして、先生におこられた。友達にも、迷わくをかけた。先生が話をしている時にしゃべってしまった。これが、知らないようにしようと思った。

自分と友達の意見が合えなかった時にけんかをしました。その後自分の意見を通そうとしないで、友達の意見も聞けなきゃと思った。

- ・ 平和的な解決策を考える段階では、(割と)細かく、丁寧に、まずは自分の考えを書くことができていた。その考えを見ながらグループで話し合いをした。

最初、多くの児童が「素直に謝りに行く」「心から反省をする」ということが書かれていたが、「本当にそれだけで良いのか」という話題になった。

「本当に気持ちを伝えるには『行動』で示す必要がある。」という意見が多く出て、全体の交流でも、同じような意見となった。

・二年生に心をこめてあやまる。
・次からは二度としないようにする。
・自分がしてしまったことに反せし、勇気を出して野菜を育てている二年生にあやまる。
・二年生の野菜作りを手伝う。

二年生に手紙で自分がやりましたことや、これからの自分はどのように変わりたいかを書かす。
もしくは、自分が野菜を三年といっしょに育てる。

(※太枠は話し合いの後、付け足されたところ。)

- ・ 上記の感想のように、話し合いの後、「行動や姿で示す」ことの大切さに気づき、付け加えをする児童がいた。「平和的に物事を解決していく」には、もちろん「気持ちを整える」ことも大切であるし、目に見える形で行動することも大切である、と子どもたちは考えたようだった。

以上のように、「道徳の資料をもとに話し合い活動をし、平和的な解決策を模索し提案する」という実践は、子どもたちが自分のこれまでの経験と重ね、また解決に向け、話し合い意見を出し合うことが可能であるとわかった。

ただ、話し合った内容を今後の学校生活に、本当に生かしていくことができるかどうか大切である。

今後も、子どもたちの様子を見ながら時に問題解決や平和的解決に向けた話し合いを行い、経験を一つ一つ積み重ねさせていきたいと思う。

【資料 静岡教育出版社「心ゆたかに」】

ミニトマト

★夏の放課後には、ミニトマトを育てて

七月の暑い夏の放課後のことです。四年生の真由美さんは学級園の水やりのために農園にやってきました。そこには、一年生から六年生まで、それぞれの学年の子どもたちが育てている野菜がたくさん植えられていました。

ミニトマトやきゅうり、なす、トウモロコシ、どれもおいしそうに実っていました。その中でも真っ赤に色づいたミニトマトが真由美さんの目に入りました。

なんとなく真由美さんは、その色づいたミニトマトを一つえだからもぎ取ってみました。プチッといい音がしてミニトマトが一つ真由美さんの手に転がりました。

「いい音がしておもしろい。このミニトマト、真っ赤でつやつやしてて、とってもきれい。食べたらいいかなあ。もう一つ取ってみよう。」

と言いながら、もう一つえだからもぎ取りました。二つのミニトマトが手のひらで光



38-41

ているのを見ると、あまりのきれいに三つ、四つもぎ取ってしまいました。そのうちに、真由美さんはだんだん取るのがおもしろくなってきました。真由美さんは、ちょうど食べごろのきゅうりを見つけると、そのきゅうりをどうしても取ってみたくなりました。

「こんなに取っているのだから、一本くらい取ってもいいわね。」

と、ひとり言を言いながら、いちばん大きなきゅうりを一本取って、ミニトマトといっしょに家に持って帰りました。

次の日、真由美さんは、いつものように元気に登校しましたが、昼の放送を聞いて、自分がどんなにたいへんなことをしてしまったのかに気がきました。それは、二年

生からの放送でした。

「二年生から全校のみなさんにお願ひがあります。わたしたちは、毎日水やりや草取りをしながら、大切に野菜を育てています。でもこのごろ、その野菜を取る人がい

てこまっています。野菜を取らしてしまうと、楽しみにしている野菜パーティーが

できなくなってしまう。わたしたちの野菜を取らないでください。」

次に、今にも泣きだしそうな声で、二年生の男の子が話し始めました。

★真由美さんは、二年生の放送を聞いて、びっくりした。

「ぼくが大事に育てているきゅうりが、なくなってしまう。昨日の帰りに水をあげたときにはあったのに、今朝見たらなくなっていました。」

この声を聞いたとき、真由美さんは、目の前が真っ暗になりました。

（そんなつもりじゃなかったのに、ごめんね、ごめんね。）

と、心の中で何回も言い続けましたが、声になりません。早くあやまらなくてはいけないと思うのですが、

（どうしよう、どうしよう。）

と、こまってしまうばかりです。

「そんなにひどいことする人がいるの。」

「せっかく大切に育てたのに、かわいそう。」

まわりの友達が、口々に話している声が聞こえてくると、ますます言えなくなってしまう。

放課後、真由美さんは、二年生の学級園に、そつと行ってみました。すると、大きい二年生が、一生けん命野菜の世話をしていました。真由美さんは、（放送で言っていた男の子が、この中にいるんだらうなあ。）

と、心の中で思いました。そして、たまたまなくなって、家に向かって急に走り出しました。



★自分の真由美は男の子が、放送で話した。

北アメリカの地域的特色を考える

研究委員会の中で、「子どもたちに平和的に解決する力を育てていくこと」「国際理解とは国と人種の違いを越えて、お互いを理解し合い、共に生きていくという態度を育てることであり、他国の理解だけでなく、自国の理解も必要となる」という話が印象に残りました。

「北アメリカ州」については、人種の違いを越えて、お互いを理解し合い、ともに生きていることを学習する州となります。北アメリカの地域的特色を、生徒と共に考え「平和的に解決する力」につなげていきたいと思いました。

今回の実践は、特別なものを準備しなくても、普段使っている教科書や資料集を使えば平和教育はできるという提案でもあります。

【授業の具体】

社会科学習指導案

指導者 北村 大策（伊東市立南中学校）

1 単元名 「北アメリカの地域的特色」

2 単元目標

- 北アメリカについて基本的な情報を身に付け、そこに暮らす人々の生活に関心をもつ。
- 北アメリカの特色ある地理的事象を追求し、その地域的特色を考える。
- 北アメリカと世界とのつながりを理解する。

3 本時の目標（2 / 5 時間）

アメリカ合衆国は世界中から集まった移民によって構成されていることを理解した生徒が、アメリカの移民の歴史や市民権について考える活動を通して、多様な文化を元にアメリカの文化が形成されていることや、それを世界へ発信していることを理解する。

4 指導過程

段階	教員の働きかけと予想される子どもの活動	留意点
導入	<p>○アメリカ合衆国の教室や色々な町の様子からどんなことがわかりますか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><教室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの服装や髪型、髪の色など様々だ。 ・子どもの肌の色も様々だ。 <p><町の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国や韓国の町みたい。 <p style="text-align: center;">⇒いろいろな文化が混じっている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の学校や町の様子を写真で掲示する。 ・「人種」「民族」「移民」など社会科の用語も説明していく。

	<p>○アメリカ合衆国はどのような人種・民族によって構成されているのだろうか。</p> <p>アメリカは様々な人種、民族によって構成されているんだ。 たくさんの国の人が移民してきたことがわかる。</p> <p>アメリカの文化はどのようなよさがあるのでしょうか。 移民をキーワードに考えよう。</p> <p><アメリカの歴史から調べよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国はもともとヨーロッパから来た移民によってつくられたんだ。 ・アフリカの奴隷が労働力として連れてこられたんだ。 ・20世紀末にはヒスパニックやアジア系が増えている。 <p><人種のサラダボウルから考えてみよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民は審査を受けて市民権を得るんだ。 ・アメリカに生まれた人には市民権が誰にでも与えられるんだ。 ・アメリカが移民を受け入れて発展してきたんだ。 ・それぞれのよさが社会に生かされているんだ。 <p>○アメリカの文化について、学習したことを生かして自分の考えをまとめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの移民の変化や人種割合のグラフも掲示する。 ・アメリカの歴史資料を提示し、その内容を読み取るようにする。わからない語句は全体で確認する。 ・アメリカの社会の特徴（市民権・人種のサラダボウル）資料を提示し、その内容を読み取るようにする。 ・アメリカの移民の変化や人種割合のグラフも掲示する。
<p>展開</p> <p>終末</p>	<p>アメリカの文化はどのようなよさがあるのでしょうか。 移民をキーワードに考えよう。</p> <p>・アメリカの文化は世界中からアメリカにやってきた移民の人々によって生み出されている。多様な文化が集まって新たなアメリカの文化が作りだされた。それが移民の人を送り出した世界各国に広がった。</p>	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化を元にアメリカの文化が形成されていることや、それを世界へ発信していることを理解できたか。

5 授業後の反省と評価

- ・写真を通して、生徒たちはアメリカ合衆国が、さまざまな人種が生活している国であることを捉えることができた。
- ・ハイスクールの写真を掲示したとき、生徒たちは、髪の色や目の色、肌の色、体格や顔つきなどを見て、同じ教室にいろいろな人種がいることに気がつく事ができた。また、チャイナタウン、コリアタウンの写真では、中国や韓国の町並みがアメリカにあることに驚いていた。日本の中華街の話をする身近に感じる生徒も見られた。
- ・アメリカの移民の変化や人種割合のグラフから、生徒たちは、アメリカ合衆国には多種多様な人種が住んでいることを読み取ることができた。
- ・黒人が約14%という割合でアフリカ系が多いこと、ヒスパニックの割合が増えていること、それらが貴重な労働力となっていることに驚き、アメリカを支えていることに気づくことができた。

- アジア系が約4%いることから、チャイナタウンやコリアタウンのように、移民の国の文化が根付いていることに気づく生徒が見られた。
- 人種のサラダボウルの資料から、生徒たちは、世界からの移民が共生しているからこそ、アメリカの文化が生み出されたことを理解することができた。
- 国際理解において、視覚的に捉えられるような資料や具体的な数値を生徒に示すことで、他国の状況を理解しやすいと感じた。

<課題>

- 人種差別の資料を活用した生徒が、アメリカに対し否定的な意見をもってしまった。教員の補足として、人種差別を撤廃しようと努力している面についても触れてよかった。
- 他国批判になってしまっただけでは、平和的に解決する力を身に付けることができないと感じた。教員は生徒の思いや話を聞きながら、広い視野に立った話もしていくことが大切だと思った。
- 自国を理解する意味でも、日本とのつながりをもう少し考えてもよかった。単元の中で、その国と日本の比較を入れてもよいのではないかと思った。
- 『平和的に解決する力』を育成するには、『国際理解』や『人権の尊重』が大切になると思う。今回の実践で人権の尊重について触れられたものの、生徒たちは人権について深く考えることはできていない。中学校の社会科の中で、歴史や公民ともつなげていきたいと思った。

平和とは何か

国際連帯と平和教育委員会 報告書 VOL.43 の中に「見方を変えることにより身近な物が様々な側面をもつことを知る教育実践（世界に目を向けよう）」というものがありました。人と人が関わり合っ
て生きていかなければいけない社会では、物事を1つの視点ではなく、他者の立場になって考えてみ
るなどの様々な視点から見るのが重要だと考えます。

自分が使っている物の中には外国製のものが多くあり、その生産国ではどのような労働環境がかつ
てあったのかを知ることにより、様々な視点から見ることで、平和について考えていきたいと思ひます。

【授業の具体】

道徳指導案

指導者 土屋 信治（富士宮市立富士宮第一中学校）

1 単元名 「平和とは何か」

2 本時の目標

- ①日常生活におけるさまざまな現象や出来事の断片から、人と人とのつながりを実感し、「対立」や「葛藤」
を解決する手だてを見つける。
- ②日常生活を通して平和や戦争といった問題を見つめることで、より身近に感じることができる。
- ③平和に満たされた豊かな社会を築くのは、自分たち自身であることに気づく。

3 本時の指導（1／1）

（1）指導過程

	学習内容	留意点
導入	<p>○2枚の図を見せて、世界で起きている貧富の差の現状を見つめる。</p> <p>①世界の富の配分 ②ナイキの搾取工場</p> <p>○かつてのナイキの搾取工場の現状を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイキの搾取工場では、過酷な労働を強いられていたことを知る。 ・私たちの普段履いている上履きもインドネシア産であることを知る。 ・靴の履けないアジアの女性労働者と私たちがつながっていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの図からわかる貧富の差の現状を想像させてみる。 ・ナイキの搾取工場と私たちの生活が無関係ではなく、直接結びついていることを実感させたい。

<p>深める</p>	<p>○世界中で起きている出来事の中で、平和を脅かす出来事または脅かそうとしている出来事を5つ挙げてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I Sによるテロ事件 ・ 北朝鮮のミサイル発射、核実験 ・ シリアの内戦 ・ 中国による領海侵犯 ・ トランプ大統領の横暴 <p>○「平和とは～」で始まる5つの短文を考えてみよう。</p> <p>○班をつくり、班で出し合った「平和とは～」の短文の中からベスト5を選び、ホワイトボードに書いて発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和とは、戦争や紛争のない世界。 ・ 平和とは、「平和とはなんだろう」と考えられること。 ・ 平和とは、貧富の差がないこと。 ・ 平和とは、皆が平等に生きられること。 ・ 平和とは、人類がめざさなくてはいけない世界である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本以外の世界の国では戦争や紛争が多発していることを改めて確認する。 ・ 戦争や紛争以外にも平和を脅かすものを広い範囲で考えられるようにする。 ・ 文章を書くという作業を通して、平和のイメージが決して単一的なものではなく、「平和とは何か」を自分の内面や日常生活の問題としてとらえられるようにしたい。 ・ それぞれが描く平和のイメージの違いを共有することで、さらに広く平和をとらえることができるようにしたい。
<p>まとめ</p>	<p>○今日の学習を通して気づいたことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今の日本がとても平和であることが当たり前ではなく特別なものである。 ・ 私たちの生活と世界の貧困社会とが確実につながっていることがわかった。 ・ 私たちの社会は、貧困社会の上に成り立っていることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの住んでいる日本の平和な環境は、決して当たり前環境では無く、世界的に見て特別な環境であることを認識させたい。

4 授業後の反省と評価

- ・ 生徒たちはアジアの過酷な労働環境を知り、さらに自分たちが履いているシューズがインドネシア産であることを知ることで、自分たちに無関係ではないと感じてくれた。
- ・ 「ナイキの搾取工場」が過去のことであること、今はそのようなことはないということを伝えておかないとナイキ批判の授業になってしまうと感じた。
- ・ 「ナイキの搾取工場」の話と「世界を脅かす出来事」を挙げるところのつながりが少し薄い気がするため、うまく繋がるよう考えていきたい。

生徒が考えた「平和とは」

1. 平和とは、みんなが幸せに暮らす
2. 平和とは、助け合うことができる。
3. 平和とは、争いがなくなる。
4. 平和とは、生きていること。
5. 平和とは、だれもが夢をもち、未来を思いえがけること

1班

1. 平和とは、殺人事件がない国。
2. 平和とは、争いがないこと。
3. 平和とは、共同作業を大切にすること。
4. 平和とは、ねられること、食べられること。
5. 平和とは、喜怒哀楽があること。

2班

1. 平和とは、いつも変わらないこと。
2. 平和とは、ご飯が食べられること。
3. 平和とは、争いのないこと。
4. 平和とは、毎日笑えること。
5. 平和とは、みんな仲良く暮らせること。

3班

1. 平和とは、普通の生活が送れること。
2. 平和とは、争いごとがない。
3. 平和とは、みな平等。
4. 平和とは、差別がない。
5. 平和とは、国々がみな仲良し。

4班

1. 平和とは、戦争や争いがなくないこと。
2. 平和とは、人種差別がなく世界平等
3. 平和とは、テロなどがなくないこと。
4. 平和とは、事件や犯罪がなくないこと。
5. 平和とは、特に何もなくないこと。

5班

1. 平和とは、技術が発展すること。
2. 平和とは、豊かな暮らしができること。
3. 平和とは、笑っていられること。
4. 平和とは、人々が幸せな暮らしができること。
5. 平和とは、争いがなくない。

6班



世界の富（所得）の配分



最も豊かな5分の1の人たちが世界の富の85%を独占している。

データ：国連開発計画 (UNDP) 「人間開発報告書1994」

COLUMN 7

経済のグローバル化と人権抑圧

～ナイキの搾取工場

「エア・ジョーダン」をはじめとする人気商品で世界の若者を魅了したナイキの靴は、インドネシアや中国、ベトナムの「搾取工場」と呼ばれる工場で韓国系企業によって生産されています。

ここでは、労働者への体罰及び暴力などが後をたちません。たとえばベトナムでは、1998年上半期だけで900人の労働者がやめられています。3月には韓国企業管理職がミスをした女子労働者15人を一列に並ばせ、靴で頭や顔や腕を殴るなど体罰を加えた事件が起きています。また、45人の女性従業員が25分間、宙に手を掲げながら地面にひざまずかせられるという体罰もありました。また、それから半年も経たないうちに、ベトナム最大のナイキ契約工場において韓国企業によるレイプ未遂事件が起きています。

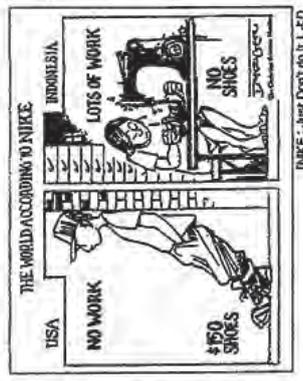
ナイキ工場連で働くベトナム人の時給は平均20セント、労働時間は1日10～11時間。1997年にも低賃金と劣悪な労働環境に抗議して、250人がレイプ内を子モしました。ナイキ労働者の85パーセントが15歳から18歳の若い未婚女性が占められています。男性よりも女性のほうが短時間で、地方出身者なら労働者の権利に対しても無知だと知られているからです。長時間の連続労働ゆえにケガをした労働者に別しても何の保障もなく、十分な手当ではなされていません。

こうした実情を、国際的にも影響力の強い新聞「ニューヨークタイムズ」は「女性労働者への待遇は奴隷とそれほどかわらない。ナイキ工場は人権侵害や体罰までも蔓延する新兵訓練所同様である、という。水を飲む時間、トイレに行く時間までもが厳しく制限される。8時間に1回だけトイレに行くこと、最大2杯の水を飲むことが許されているだけである。労働者たちはいくらかお菓子があっても、のどが乾いても、トイレに行きたくても、だまってシューズ作りに専念しなければならぬ」(1997年9月31日付)とレポートしています。ブランドイメージの定着を目的に、ナイキが広告宣伝に費やした金額は計り知れません。たとえば、1994年サッカーワールドカップ優勝国であるブラジル代表チームには2億ドルの契約料を払い、1996年にはプロゴルフアーマーのタイガー・ウッズと7年間で4000万ドルという破格の契約を結んでいます。他に

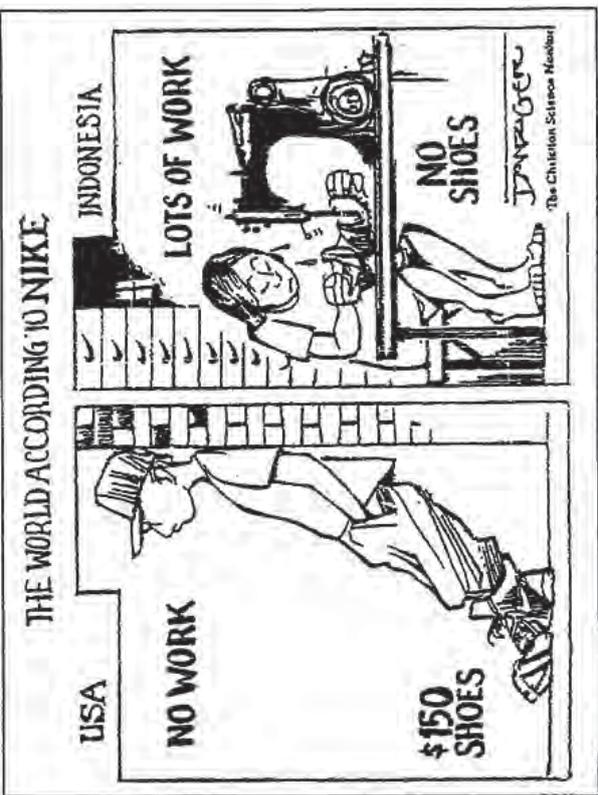
もNFL(ナショナル・フットボール・リーグ)のスーパースターのリレヒ中継のCM放映料で、30秒で130万ドル(約1億5000万円)という金額を払っています。アメリカのプロバスケットボールプレイヤーのマイケル・ジョーダンが1年間にナイキから得るCM契約料は2000万ドル(約25億円)で、インドネシアのナイキ工場労働者2万人全体の収入より多いのです。

「搾取工場」の背後にあるのは、「世界で通用する商品を、世界的に知るほどの高い契約アスリートというナイキ独自の宣伝戦略です。その戦略を継続していくためには莫大なコストがかかります。この宣伝広告費が収益を圧迫し、その分のコスト削減が「低賃金・長時間労働」を生み出しています。つまり、ナイキは自分の手を悪巧みでずに労働者を酷使し、消費者には高い価格で売り、莫大な利益を得ているのです。

経済のグローバル化によって、靴のほけのないアジアの女性労働者、その労働者の影で高額な広告料を得ているスポーツ選手、高収入を得ているナイキなどの大企業経営者、そして高い靴をばく私たちがつなごうとしているのです。



■ 著作権 © NIKE
「NIKE: Just Don't do it.」アジア太平洋地域センター



「NIKE: Just Don't do it.」より

文化としてのスポーツ ～国際的なスポーツ大会とその役割～

スポーツには、さまざまな国際大会があり、それらは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしています。中でもオリンピックは、誰もが知っている国際大会ですが、選手にばかり注目があつまり、さまざまな場面において、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることはあまり紹介されていません。

今回はオリンピックに焦点をあて、その存在意義と、私たち一人一人がオリンピックなどの国際大会にどのように関わることができるかについて生徒と共に考えたいと思います。

【授業の具体】

保健体育科学習指導案

指導者 櫻井 剛（掛川市立北中学校）

1 単元名 文化としてのスポーツ ～国際的なスポーツとその役割～

2 単元目標

- 文化としてのスポーツの意義について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的にとりくむことができるようにする。
- 文化としてのスポーツの意義について、学習した知識を活用したり応用したりすることができるようにする。
- 文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

3 本時の指導（2／3）

（1）本時の目標（ねらい）

国際的なスポーツ大会とその役割について学習する。オリンピック競技大会や国際的なスポーツ大会は、世界中の人々にスポーツのもつ教育的な意義や倫理的な価値を伝えたり、人々の相互理解を深めたりし、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている。しかし、そのことを意識している生徒は少なく、メダルを取ることをめざして戦っているだけだと多くの生徒は考えている。

本時の授業では、国際的なスポーツ大会の中でも、イメージしやすいオリンピック競技大会に焦点をあて、参加している国や選手は様々な思いで参加していること、選手だけでなく、見る側、応援する側の人たちの思いにも関心をもたせ、オリンピックが行われる意義について考えさせたい。また、数年後、身近なところでオリンピック競技大会や国際的なスポーツ大会が開催される。それらの競技大会にどのように関わることができるか、また、どのような国際交流や世界の人々との相互理解を深める活動ができるかを考えさせたい。

(2) 授業過程

段階	「生徒の学習活動」及び「教員の働きかけ」	形態	時間	留意点
つかむ	1 リオオリンピックの映像を見てみよう。 ・内村航平選手だ。 ・金メダルをとったよね。	全体	5	・リオオリンピックでの内村航平選手の世界一の演技を見せる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> オリンピックが行われる目的とは何だろう </div>	全体	3	・スポーツの競い合う面をクローズアップさせる。
追究する	2 オリンピックとはどんな大会だろう。 ・世界1位を決める大会。 ・アスリートの目標。			
	3 写真の人たちはどんな思いで大会に参加しているのだろう。 ・メダルが欲しい。 ・国のために絶対に負けない。 ・お互い全力を出し、よく頑張った。 ・楽しいお祭りだった。 ・すごいプレーをこの目で見たい。 ・自分の国の選手に頑張ってもらいたい。 ・選手として最高の舞台に立ちたい。	個人 ↓ 全体	15	・競技後の写真、閉会式の写真、熱狂する観客の写真、国籍を変えて代表選手になった選手の写真などを見せ、勝ち負けだけではなく様々な思いがあることに気づかせる。
まとめる	4 オリンピックにはどんな目的があるのだろう。 ・技を高め合うため。 ・国の名誉を勝ち取るため。 ・選手たちの目標。 ・世界の人々と交流すること ・国際社会の一員として参加している。 ・世界の人々と一緒にスポーツを楽しむため。 ・平和な世界を築くこと ・国同士が平和的に競争をするため。 ・お互いの国と仲良くするため。 ・スポーツに興味をもってもらう。 ・宣伝	個人 ↓ 小集団 ↓ 全体	15	☆オリンピックは多くの人に関わり合い、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解することができたか。 (発表・ワークシート)
	5 教科書を読んで国際的なスポーツ大会とその役割をまとめてみよう。	全体	5	・教科書で、オリンピックの目的や役割を確認する。
	6 ラグビーワールドカップがエコパで開催されます。諸外国の人々と相互理解を深めるために、あなたができる活動を考えてみよう。	個人	7	・積極的に各国から来る選手や観客と交流することを考える。

4 授業後の反省と評価

導入の段階で聞いた、「オリンピックとはどんな大会だろう。」という問いに対して、「カッコいい大会」「メダルの奪い合い」など自分たちとは関係のない大会であると多くの生徒が考えていた。中には「世界中の人々が一緒にスポーツを楽しむ」「スポーツを通して色々な国々と交流する」といった国際親善に寄与しているといった意見も出てきたが、その中に自分も含まれていると考えた意見ではなかった。



深める段階で写真に写っている人々の気持ちを考えさせると、「メダルが欲しい」「絶対に勝つ」「メダルがとれて良かった」といった選手や勝敗に関わる思いから、「お互いの健闘をたたえる」「他国の選手と交流したい」「観客としてオリンピックに参加している」といったメダルにこだわらない選手や、選手ではない立場の人々の思いについても考えた。

再度、オリンピックとはどんな大会なのか考えさせると、「技を高め合う大会」「色々な国々と交流を深める大会」「世界の国々と仲良くする」といった意見が出され、子どもたちの考えが、オリンピック憲章に書かれたオリンピック大会の基本理念に近い考えにまとめることができた。



最後に、国際的なスポーツ大会を通じて、世界の人々とどのような交流や活動ができるかを考えてみると、「応援をする」「道案内をする」といったすぐに対応できるような関わり方が多かったが、「参加国について学び文化や習慣を理解する」「競技者による訪問指導を計画する」といった周りの人々と共に学んだり、その国の人たちと交流したりするようなとりくみを考える意見もでてきた。

今回の授業を通し、オリンピックは選ばれた選手がメダルを争い、自分たちは、マスメディアを通じて、その姿に一喜一憂する大会だと子どもたちは思っていた。しかし、メダル争いだけでなく、色々な視点でオリンピックについて考えると、オリンピックは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、自分たちも、少しではあるが、その関わりの中にいることを感じる事ができたと思う。

5 資料等（ワークシート） 文化としてのスポーツ ～国際的なスポーツ大会とその役割～

○写真の人たちはどんな思いで大会に参加しているのだろう。写真の人たちの思いを書いてみよう。



○オリンピックが行われる目的とは何だろう。

<現在のオリンピックの目的は・・・>

- ・スポーツを通じて（ ）を鍛えること。
- ・世界の人々と（ ）すること。
- ・（ ）な世界を築くこと。

※オリンピックの基本的な理念を（ ）と言う。

○ラグビーワールドカップや東京オリンピックを通じて、世界の人々とどのような交流や活動をする事ができるだろう。

モラルジレンマを通して、 子どもの考えを深める

主人公の気持ちを考える「心情重視」の道徳から、「考える、議論する」道徳への質的な転換が図られている。このことから、モラルジレンマ（道徳的な価値葛藤）の授業を行うことによって、子ども一人一人に道徳的判断力を育成したいと考え、落語「一文笛」（桂米朝 創作落語）で授業実践をしました。この教材を通し、「生命の尊さ」と「規則尊重」との葛藤を中心に「思いやり」「誠実」「良心」等の道徳的な価値にも言及しながら、葛藤の中で子どもの考えを深めていきたいと思えます。

【授業の具体】

道徳学習指導案

指導者 瀧 大輔（静岡市立東中学校）

1 主題名 子どもの命を救うためにどうすべきだったのか（落語「一文笛」）

2 目標

「生命の尊さ」と「規則尊重」の道徳的な葛藤を議論することを通して、様々な視点から道徳的な価値を判断し、考えを深めていく。

3 本時の指導（1／1）

（1）本時の目標（ねらい）

主人公のヒデは子どもの命を救うためにどうすべきだったのか考えることを通して、道徳的葛藤の中で考えを深めていく。

（2）指導過程

段階	学習活動	形態	留意点
導入	○落語って知っていますか？ ・「笑点」でやっていたのを見たことがある。 ・オチがついていて、面白かった。	一斉	・落語についておさえる。
展開	○落語「一文笛」を範読する。 ・登場人物や情景から、物語を想像して聞く。 ・どういったオチか想像しながら聞く。 ○登場人物とあらすじを確認する。 ・ヒデと兄貴分、子ども、医者が出てくる ○ヒデが指を落としたのはなぜですか？ ・自分のせいで子どもに疑いがかけられ、井戸に身を投じたから。 ・スリをやめようと思ったから。 ○ヒデがまたスリをしたのはなぜですか？ ・子どもの命を助けたかったから	一斉	・高座に上がり、噺家になって、ゆっくりと範読する。 ・一文笛を提示する。 ・挿絵を掲示して、理解しやすくする。 ・ヒデの心情を考えさせる。 ・ヒデの心情を深く考えさせる。

終末	<p>○ヒデが医者から財布を盗んで、入院させようと思ったことについて、どう思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成 子どもの命を救うためには仕方がなかった。 ・反対 兄貴に誓ったんだから、盗んではいけないかった。 <p>○仲間の意見を聴いて、感じたことや考えたことをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成と反対派の意見に分けて板書する。また、きちんと理由を言わせて話し合わせる。 ・仲間の判断理由を聞いて、道徳な価値について考えさせる。 ・正解はないが、様々な理由を聞いて深く考えさせる。 ・気づいたことを、ワークシートに振り返らせる。
----	--	--

☆教材のあらすじ☆

スリの名人であるヒデは、貧しい子どもを不憫に思い、店からおもちゃの笛を盗んで子どもの懐に入れる。店の主人は「売った覚えがないのに、なぜ笛を持っている」と責め立てた。盗人の嫌疑をかけられた子どもは、父親から強く叱られて井戸に身を投げ、意識不明の状態になる。

「善いことをしたつもりかも知れないが、自分のしたことがどんな悲しみを引き起こすか考えたことはあるか」と、兄貴分に諭されたヒデは深く反省し、指を落とし、二度とスリはしないと誓う。

しかし、大金を出さないと意識不明になった子どもの入院治療はできないと医者に断られ、命を救うため悩んだ末、その医者から財布を抜き取り、入院費に充ててくれと兄貴分に頼む。

☆授業を行う上での留意点☆

子どもたちは「命は大切である」「盗みはいけない」ことは知っている。しかし「命を助けようとして盗みをしたことはどうなるのか」と発問すると、子どもたちは悩みながらも様々な理由で判断をする。理由も含めて仲間と議論をする中で、様々な視点から考えを深めていく。

4 授業後の反省と評価

- ・高座を作り、囃家になって範読したため、子どもたちも興味をもって話を聞いていた。
- ・落語を聴いたことのある子どもは少なかったが、内容がわかりやすかったため、あらすじはつかみやすかった。
- ・「生命の尊重」と「規範意識」の2つの価値があったが、子どもたちなりにどちらが大事なのかを考えていた。
- ・はじめは、財布を盗んだことに賛成8人、反対22人、その他1人で、意見交換をしたが、仲間の意見を聞くうちに、価値観が揺さぶられ意見を変える子どもも出てきた。最後に自分の考えを聞くと、賛成が13人、反対が15人、その他が3人となった。
- ・お金には換えることのできない「命の大切さ」を訴える子ども、「盗みは決してよくない」と力説する意見がぶつかり、主人公はどうすべきだったのか考える子どもも出てきた。
- ・自分だったらこうすると発言し、よりよい解決方法を探ろうとする子どもの発言もあった。



- モラルジレンマを取り入れ、活発な意見交換をすることを通して、生徒の道徳的な価値観を揺さぶり、様々な視点から子どもたちの考えを深めていくことができたように思う。
- 反対の意見を聞くことで、自分とは違う考え方にもふれ、共感したり、理解しようとしたりする気持ちをもとうとすることができたと思う。また、仲間の意見にも耳を傾け、理解しようとする姿も見られた。
- 今回の実践を通して、他者の意見を聞いて価値観を広げ、多様な見方をしようとする子どもも出てきたが、自分のこととして考えられずにいる子どももいた。
- 自分の価値観が揺らぐ、他の考えを受け付けない子どももいた。

5 資料等 「一文笛」(桂米朝 創作落語)

創作落語「一文笛」

年 組 番 氏名 _____

1 登場人物について

2 あらすじ

3 命を助けようと盗みをしたことについて

賛成 ・ 反対
理由

4 意見交換をして、感じたこと（考えたこと）

国際連帯と平和教育研究委員会（2016～2017年度）

共同研究者

伊藤 恭彦（名古屋市立大学教授） 17～16

所員

瀧 大輔（静岡教組） 16～17 中田健太郎（東豆支部） 16

土屋 信治（富士支部） 16～17 伊藤 秀男（志太支部） 16

櫻井 剛（小笠支部） 16～17 平野 真理（磐周支部） 16

中西 啓介（浜松支部） 16 杉浦 大千（湖西支部） 16

尾嶋 渉（浜松教組） 17 北村 大策（東豆支部） 17

寺島健太郎（志太支部） 17 青木 淳（磐周支部） 17

伊藤 慎吾（湖西支部） 17

事務局

大石 茂生 16～17

山本 裕香 16 小濱 伸哉 16

小野 佳貴 17 舘 一徹 17

争いごとを平和的に解決できる力をもった子どもたちを育てるために
～ いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育実践記録集 ～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 鈴木伸昭

発行日／2018年3月



静岡県教育事業団体全体でのサポート

～県内の児童・生徒，教職員，保護者の皆様に向けて～

小中学生国際交流体験団

協力：国際観光株式会社

- 20年にわたり，延べ3,000人以上の小中学生をカナダ・オーストラリアへ
- ホームステイ・地元学校への授業参加でグローバル教育の充実へ



小中学生国際交流体験団

教育講演会

- 24会場 10,349人の出席(平成28年)
- 小・中・高校の先生がた，教育関係者の知識と教養の向上をサポート

『これで安心!!新1年生』

- 小学校1年生入学予定の保護者全員に無償配布
入学前後の生活・学習習慣について親子へのアドバイスを綴った小冊子



私たち教育事業団体は
みなさまの
サポーターです

一般財団法人 静岡県教職員互助組合

教育に情熱、元氣、うるおいを!

教育後援事業

経済支援 給付・貸付事業

生きがい支援 福祉・文化 公益・相談事業

健康支援 健康診断

ライフプランの応援団

静岡市葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館 2F TEL 054-254-3626
互助組合ホームページへは、[こじよ丸](#) で検索

STC 静岡県教職員生活協同組合

「教育研究助成」「自作教材・教具創作助成」を通して教職員生協は教育活動を支えます。

チラシ・カタログによる供給事業を主体とし、ガソリン供給，ハウジング（新築・改築）・マンション事業，指定店事業など，20周年を迎え，今後も教職員の皆さまの生活をサポートしていきます。

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL 054-282-2140
URL <http://www.kyousyokuin-seikyō.com/>



STC 静岡県学校生活協同組合連合会

安心・安全な教材教具を通して学生協は子どもの未来を支えます。

静岡県内の各地区学生協と連携して学用品を企画開発し，供給しています。

静岡市駿河区登呂 6-14-27
TEL 054-282-2166
URL <http://www.kyousyokuin-seikyō.com/link/rengoukai/>



一般社団法人 静岡県出版文化会

教育活動を支援する教育文化事業・子どもたちの学習活動を支える図書教材研究事業を行っています。県内各地から，毎年多くの先生がたが両事業に参加しています。

静岡市葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館 3F
TEL 054-255-4451
URL <http://www.syutubun.com/>



夏休み子ども学習電話相談室

公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

教育振興（奨学・教育研究助成・教育文化），福祉，共済（提携保険）の各事業で子どもたち，教職員の皆さま，保護者の皆さまの教育・研究活動の支援や生涯の安心をお届けしています。

静岡市葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館 4F TEL 054-205-5130



株式会社 静岡教育出版社

環境・体にやさしい教材づくり

「静岡県産」の図書教材をお届けします!!
静岡県の先生がたが，静岡県の児童生徒のために作成した図書教材



「力」シリーズ



「学習診断」シリーズ

静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL 054-281-8870 URL <http://www.shizedpu.co.jp/>

KOKUSAI 国際観光株式会社

感動と夢を育み，質の高い旅を創造する国際観光

子どもの学びを広げる修学旅行やカナダ・オーストラリアでのホームステイを通しての国際交流，現職・退職教職員の学習や見聞の場としての歴史の旅や海外旅行の企画，遠足などのバス手配を行います。

本社：静岡市葵区伝馬町 6-18 109ビル 5F
TEL 054-254-2486

URL <http://www.kokusai-kanko.co.jp/>



<http://www.stu.jp/>

最後までお読みいただきありがとうございました。この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所

FAX: 054-255-5110

Mail: sier@stu.or.jp (ご意見専用研究所メールアドレス)